

職人たちのこだわり

02

色にあわせて見極める、
若手職人の挑戦とこだわり。



長年に渡り様々な製法・技法を蓄積してきた津軽びいどろ。近年では若手の職人達が主軸となり、金型を回転させて成形する「スピン成形」でのガラスづくりにも取り組んでいます。その中心となっているのが、職人歴10年の横山。休み時間にも炉の前で竿を吹き、ひたむきに技術を磨く努力家です。新製品である「12色のガラス」も彼が手掛けています。

「ガラスは色によって硬さが違うので、それぞれの色にあわせた成形が必要になります」。遠心力で形をつくるスピン成形では、ガラスの入れ方や金型を回す速度の違いが完成品に大きな影響を与えます。硬さが変わるとガラスの動き方も変わり、厚みやフチの滑らかさにも差がでできます。色違いで同じ品質をつくるためには、たくさんの挑戦と調整が欠かせません。

「どこまでの品質なら製品として提供できるか、みんなで何時間も語り合いました」。ハンドメイドだから生まれる柔らかさや個性を活かしつつ、できるだけ均等な製品を届けたい。津軽びいどろの製品は、職人たちのこだわりが隅々にまで込められています。



北洋硝子株式会社
横山 俊彦

2005年入社。ものづくりに対して妥協を許さない真摯な姿勢で若手のリーダー的存在に。現在は、青森県伝統工芸士である芳賀のもとで、「宙吹き」の技法を習得するため日々研鑽を重ねている。